

広仁会賞 第27回 中島 拓

題 名：Circulating KL-6/MUC1 as an independent predictor for disseminated intravascular coagulation in acute respiratory distress syndrome

(血中 KL-6/MUC1 は、急性呼吸窮迫症候群における播種性血管内凝固合併の独立した予測因子である)

要旨：

背景と目的：急性呼吸窮迫症候群 (acute respiratory distress syndrome：ARDS) は急性に発症した重症肺障害を包括した疾患群であり、比較的高頻度にみられ、その死亡率は50%前後と高い。ARDS 症例には凝固線溶系の異常が高頻度に合併するが、特に播種性血管内凝固 (disseminated intravascular coagulation：DIC) を併発したものではありません。また ARDS 症例では、血中に様々なムチンの増加が認められるが、近年ムチンはセレクチン結合部位を介して血管内凝固に関与することが報告されている。そこで我々は MUC1 ムチンに属する KL-6 が ARDS における DIC 合併に関与しているとの仮説をたて本研究を行った。

方 法：56例の新規に発症した ARDS 症例における診断時 KL-6/MUC1 値と、臨床経過中の DIC を含めた臨床背景因子の関連について検討した。

結 果：ARDS 診断時の血清 KL-6/MUC1 値は、経過中に DIC を合併した群において DIC 非合併群と比較し有意に高値を示した ($P=0.018$)。DIC 合併規定因子について多変量解析を行ったところ、血清 KL-6/MUC1 値は独立した DIC 合併予測因子であることが明らかとなった。さらに、診断時血清 KL-6/MUC1 値は、経過中の DIC スコアーの変化量と有意な相関を示した。経過中の DIC 合併に対する ROC 曲線から得られた血清 KL-6/MUC1 のカットオフ値を用いたところ、ARDS 症例における DIC 合併の有無に対する感度は88.9%、特異度は55.3%であった。

結 語：KL-6/MUC1 は ARDS 症例における DIC 合併予測に有用なマーカーとなり得た。ARDS における DIC 合併を予測し早期に治療を開始することで予後改善につながる可能性がある。